

燕市・弥彦村送配水管整備事業

事業者選定結果報告書

平成 31 年 2 月

燕市・弥彦村浄水場施設再構築事業に係る事業者選定委員会

【事業者選定結果報告書】

目次

1	はじめに	1
2	本委員会の開催経緯.....	1
3	プロポーザル応募の手続きの経緯.....	2
4	審査の手順	3
5	審査の結果	4
1)	応募者	4
2)	基礎審査.....	4
3)	技術評価.....	4
4)	価格評価.....	6
5)	総合評価.....	6
6)	最優秀提案者及び優秀提案者の選定.....	6
6	講評	7
1)	評価項目ごとの講評	7
2)	総評.....	9

1 はじめに

燕市・弥彦村浄水場施設再構築事業に係る事業者選定委員会（以下、「本委員会」という。）は、燕市・弥彦村送配水管整備事業（以下、「本事業」という。）に関して、事業者選定基準（平成30年10月1日公表）に基づき、提案内容等の審査を行い、最優秀提案者を選定したので、ここに審査結果及び審査講評を報告する。

2 本委員会の開催経緯

本委員会の開催経緯は、以下のとおりである。

選定委員会	開催日	内容
第1回	平成30年 7月31日	<ul style="list-style-type: none">・事業概要の確認・実施方針（案）の審議・現場視察
第2回	平成30年 8月29日	<ul style="list-style-type: none">・実施方針（改訂版）の確認・募集要綱（案）等の審議
第3回	平成31年 2月14日	<ul style="list-style-type: none">・プレゼンヒアリング、質疑応答・提案内容の審査・最優秀提案者、優秀提案者の選定

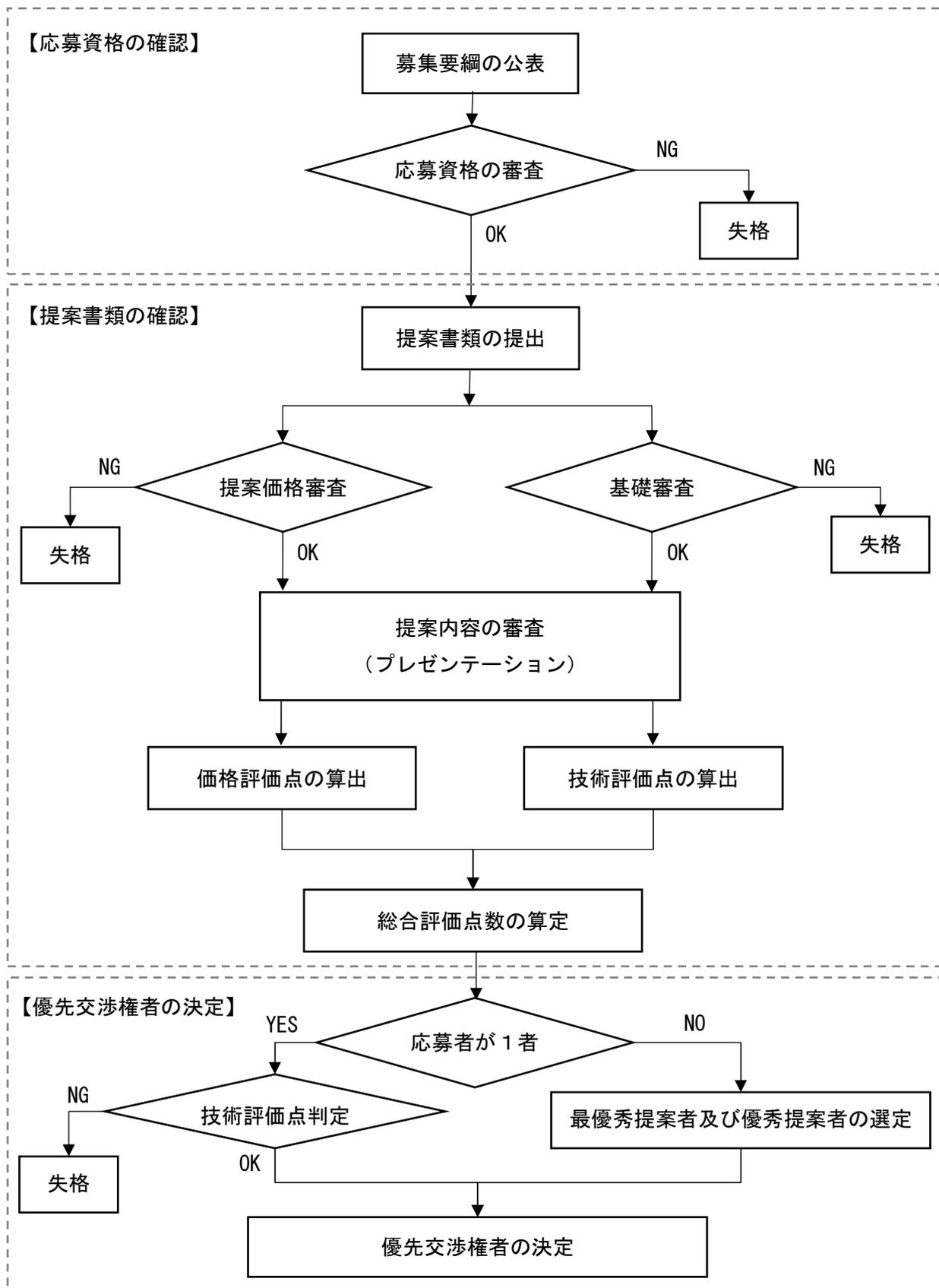
3 プロポーザル応募の手続きの経緯

プロポーザル応募の手続きの経緯は、以下のとおりである。

実施事項	日付
実施方針の公表	平成30年8月10日(金)
実施方針に関する説明会	平成30年8月21日(火)
実施方針に関する質問及び意見等の受付	平成30年8月10日(金)から 平成30年8月23日(木)まで
実施方針に関する質問及び意見等への回答公表	平成30年9月4日(火)
プロポーザル公告(募集要綱、要求水準書、事業者選定基準、様式集、基本協定書(案)、基本契約書(案)、設計業務委託契約書(案)及び建設工事請負契約書(案)を以下「募集要綱等」という。)の公表	平成30年10月1日(月)
募集要綱等に関する説明会	平成30年10月10日(水)
募集要綱等に関する質問の受付	平成30年10月1日(月)から 平成30年10月12日(金)まで
募集要綱等に関する質問への回答公表	平成30年10月31日(水)
参加表明書等の受付締切	平成30年11月30日(金)
参加資格確認結果の通知	平成30年12月7日(金)
提案書類の受付	平成31年1月16日(水)
プレゼンテーションの実施及び応募者へのヒアリング	平成31年2月14日(木)
最優秀提案者、優秀提案者の選定	平成31年2月14日(木)

4 審査の手順

審査は、以下の手順で実施した。



5 審査の結果

1) 応募者

平成 30 年 11 月 30 日までに、3 者から参加表明書等の提出があり、募集要綱等に示す参加資格の要件の具備について確認した。その結果、いずれの応募者も参加資格を有していることを確認し、平成 30 年 12 月 7 日付で、参加資格確認の結果を通知した。

なお、これ以降は応募者を参加表明書等の提出順に、A グループ、B グループ及び C グループと呼称する。

2) 基礎審査

平成 31 年 1 月 16 日までに、同 3 者から提案書類の提出があり、技術提案書の各様式に記載された内容が要求水準を満たしていることを確認した。

3) 技術評価

事業者選定委員会の各選定委員は、事業者選定基準に基づき、応募者名を伏せて技術評価を行った。

技術評価は、下記の 5 段階の判断基準によって行い、各選定委員の評価点を平均して算出した。

評価	判断基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの間	配点×0.75
C	平均的である	配点×0.50
D	CとEの間	配点×0.25
E	満足できない／能力が乏しい	配点×0.00

技術評価点の算出結果は、下記のとおりである。

分類	項目	配点	グループ		
			A	B	C
1. 企業・配置予定 技術者実績	設計企業	3	3.00	3.00	3.00
	建設企業	3	2.00	2.00	2.00
	管材企業	1	1.00	1.00	1.00
	配置予定技術者	3	2.00	1.00	2.00
	小計	10	8.00	7.00	8.00
2. 業務計画に関する 提案	業務実施方針	4	3.33	2.00	2.84
	業務実施体制	6	5.00	3.50	4.76
	小計	10	8.33	5.50	7.60
3. 設計・施工・工期等 に関する提案	調査・設計計画	12	9.39	7.39	9.76
	施工計画	15	11.76	7.88	12.13
	管材調達計画	3	2.75	2.00	2.50
	工期の確実性	12	9.38	6.52	9.14
	その他	3	2.75	2.00	2.50
	小計	45	36.03	25.79	36.03
4. 環境配慮に関する 提案	環境対策	6	4.63	4.25	4.51
	小計	6	4.63	4.25	4.51
5. 地域貢献に関する 提案	地域経済	3	3.00	3.00	3.00
	地域貢献	3	2.50	2.25	2.38
	小計	6	5.50	5.25	5.38
6. 課題解決能力	事業者の課題解決能力	3	2.38	2.25	2.50
	小計	3	2.38	2.25	2.50
技術評価点 合計		80	64.87	50.04	64.02

4) 価格評価

価格評価点は、見積上限価格の85%に相当する提案を20点（配点の100%）、見積上限価格と同額の提案を0点（配点の0%）として、それらの中間の提案価格については直線補間により評価した。

価格評価点の算出結果は、下記のとおりである。

項目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
提案価格(円、税抜)	4,499,000,000	4,700,000,000	4,562,400,000
価格評価点	9.50	3.96	7.75

5) 総合評価

技術評価点と価格評価点を合計した総合評価点の算出結果は、下記のとおりである。

項目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
技術評価点	64.87	50.04	64.02
価格評価点	9.50	3.96	7.75
総合評価点	74.37	54.00	71.77

6) 最優秀提案者及び優秀提案者の選定

本委員会は、総合評価点が最も高いAグループを、最優秀提案者として選定した。また、総合評価点が次点であったCグループを、優秀提案者として選定した。

【最優秀提案者】

J F E・加賀田・氏田・ 日水コン送配水管整備 特定共同企業体 (Aグループ)	代表企業	J F Eエンジニアリング株式会社 新潟支店
	構成企業	株式会社 加賀田組 燕営業所
		株式会社 氏田組
		株式会社 日水コン 新潟事務所

6 講評

1) 評価項目ごとの講評

ア) 企業・配置予定技術者実績

- ・ いずれのグループも、本事業を確実に遂行するための実績を有していた。
- ・ Aグループ及びCグループは、十分な実績を有する技術者の配置が提案されていた。

イ) 業務計画に関する提案

① 業務実施方針

- ・ いずれのグループも、本事業の業務フロー上における重要事項の指摘、確実に業務を遂行するための提案がなされていた。
- ・ Aグループは、各段階におけるレビューによる手戻り防止策が講じられており、工期短縮でのリスク軽減は評価できる。また、窓口の一元化と共に工事の進捗状況の報告頻度は十分であり、事業実施状況のモニタリングをサポートする内容は特に評価できる。

② 業務実施体制

- ・ いずれのグループも、各構成企業の役割分担、実施体制及び配置人員について具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、IT施工管理システムへの登録、週例・月例・緊急会議の内容が明確に示され、実施体制の充足度が高い。
- ・ Cグループは、構成企業の役割分担と施工、設計、管材の相互関係が示されていて耐震管路工事の確実な推進が期待できる。

ウ) 設計・施工・工期等に関する提案

① 調査・設計計画

- ・ いずれのグループも、必要な調査、耐震性等に配慮した設計計画、設計照査の方法、第三者機関との協議調整について、具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、埋設物探査レーダーを用いた埋設物調査、全区間平板測量、騒音振動調査など独自調査の特色を出している。また、寒冷地対策を考慮した設計計画となっている。
- ・ Cグループは、施工者による設計支援が具体的で、より高い設計精度による確かな事業推進が期待できる。また、照査段階の体制・方法が確立しており建設・管材企業の支援が具体的に示されている。

② 施工計画

- ・ いずれのグループも、安全管理、地域へ配慮した施工及び対策、品質確保策について、具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、現場カメラを用いた本社での施工状況の把握や運搬車両のドライブレコーダーの搭載など安全管理体制を徹底している。
- ・ Cグループは、計画ルート毎に地域の特徴をとらえた優れた施工計画となっている。細

かい点まで配慮した品質管理の内容についてポイントを押さえ具体的に示している。

③ 管材調達計画

- ・ いずれのグループも、管材の供給能力について、根拠が明確であった。
- ・ Aグループは、協力会社と連携した管材調達計画が具体的で安定感がある。
- ・ Cグループは、製造拠点を複数擁し十分な製造能力と供給体制を持っている。

④ 工期の確実性

- ・ いずれのグループも、工期内に各工種が網羅された工程計画が提案されていた。
- ・ Aグループは、工期遵守のため1年間の工事遅延対応期間を取っている。
- ・ Cグループは、振替可能な施工計画と遅延を吸収する期間を設け事業の遅延防止対策を取っている。

⑤ その他

- ・ いずれのグループも、本事業を確実に遂行するための具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、調査業務における埋設物探査レーダーの活用により埋設物リスクの低減が期待できる。

エ) 環境配慮に関する提案

- ・ いずれのグループも、建設副産物の処分・軽減等について、具体的・効果的な提案があった。
- ・ Aグループは、建設副産物の発生土の処分・軽減について、複数の受け入れ先、再利用、運搬への配慮が記載されている。
- ・ Bグループは、土質改良土プラントシステムの採用や、ダクティル鉄管の切管抑制による環境負荷の軽減は評価できる。

オ) 地域貢献に関する提案

① 地域経済

- ・ いずれのグループも、地域経済への貢献が期待できる提案があった。

② 地域貢献

- ・ いずれのグループも、地域社会や住民に対する貢献について、具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、インフォメーションセンターの設置により事業概要及び工事に関する情報発信が具体的で地域住民との信頼性構築への取組がある。

カ) 課題解決能力

- ・ いずれのグループも、本事業で想定される課題を抽出し、それらに対する具体的な提案があった。
- ・ Aグループは、既設埋設物の影響、地下水対策など設計・施工段階における課題を具体

的に提示し解決策を明示してあり評価できる。

- ・ Cグループは、埋設物や現場状況による施工困難ルートの早期抽出とルート変更を含む検討が、十分な解決能力を有した内容となっている。

2) 総評

本事業は、燕市及び弥彦村が共同で整備する統合浄水場の新設にあたり、統合浄水場と既存の配水池や配水管網等を連絡するための送配水管を整備するものである。

各応募者の提案は、いずれも本事業の目的を達成することに対する意欲や熱意を感じさせるものであり、また、各企業の最新技術及び蓄積されたノウハウが活用された甲乙つけがたい優れたものであったが、本委員会の各選定委員の評価を踏まえた技術評価点及び提案価格から算出した価格評価点を合計した総合評価点が最も高い「JFE・加賀田・氏田・日水コン送配水管整備特定共同企業体」を最優秀提案者として選定した。

最後に、提案書作成にあたって、各応募者が多大な労力と時間を費やしていただいたことに対し、深く敬意を払うとともに、燕市・弥彦村と事業者の双方が常に誠意をもって、本事業の目的達成に向けて努力されることを期待する。